

平成24年度 事業報告書

自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

学校法人 尚美学園

目 次

	頁
I 法人の概況	
1. 設置する学校・学部・学科等	1-2
2. 役員の概要	3
3. 教職員の概況	3
4. 学校法人の沿革	4
II 事業の概要	
<尚美学園大学 事業報告>	
1. 当年度の事業の概要	5-6
2. 諸活動報告	6-8
3. 主な予算執行	8-9
<尚美ミュージックカレッジ専門学校 事業報告>	
1. 当年度の事業の概要	9-10
2. 諸活動報告	10-11
3. 主な予算執行	11-13
III 設備の状況	
1. 主要な設備の状況	14
IV 財務の概況	
1. 資金収支計算書	15
2. 消費収支計算書	16
3. 貸借対照表	17

I 法人の概況

1. 設置する学校・学部・学科等

(平成24年5月1日現在)

学校名	所在地 (電話番号)		学部・学科等			入学 定員	収容 定員	学生数	
								1年	2年
尚美学園大学	川越キャンパス	埼玉県川越市 豊田町 1-1-1 (049-246-2700)	修士	総合政策研究科	政策行政専攻	10人	20人	1年	11人
								2年	13人
								計	24人
			学士	総合政策学部	総合政策学科	180人	800人	1年	156人
								2年	200人
								3年	213人
								4年	204人
					計	773人			
					ライフマネジメント学科	180人	640人	1年	175人
								2年	208人
	計	807人							
	上福岡キャンパス	埼玉県川越市 下松原 655 (049-246-5251)	修士	芸術情報研究科	情報表現専攻	10人	20人	1年	6人
								2年	14人
								計	20人
					音楽表現専攻	10人	20人	1年	12人
								2年	16人
			計	28人					
			学士	芸術情報学部	情報表現学科	160人	700人	1年	194人
								2年	201人
								3年	177人
4年					198人				
計	770人								
音楽表現学科	140人	540人	1年	145人					
			2年	155人					
			3年	176人					
4年	160人								
計	636人								
合 計						690人	2,740人	3,058人	

学校名	所在地 (電話番号)	学部・学科等	入学 定員	収容 定員	
尚美ミュージックカレッジ専門学校	東京都文京区 本郷 4-15-9 (03-3814-8761)	音 楽 専 門 課 程	ピアノ学科	30 人	60 人
			電子オルガン学科	30 人	60 人
			管弦打楽器学科	120 人	240 人
			ポップ・スコア・ソングライター学科	40 人	80 人
			ヴォーカル学科	60 人	120 人
			プロモーション学科	120 人	240 人
			アレンジ・作曲学科	80 人	160 人
			ミュージカル学科	60 人	120 人
			ダンス学科	60 人	120 人
			声優学科	100 人	200 人
			音響・映像学科	120 人	240 人
			ミュージックビジネス学科	120 人	240 人
			音楽総合アカデミー学科	80 人	320 人
合 計			1,020 人	2,200 人	

2. 役員の概要

(1) 理事及び監事（理事の定員：9名、外部理事：うち3名）

(平成25年3月31日現在)

役職	氏名	担当職務	現職
理事長	松田 義幸		大学学長
専務理事	渡辺 省吾	財務・事務担当	法人本部長
理事	野口 浩志	教学担当	専門学校学校長
理事	柳沼 雅彦	事務担当	大学事務局長
理事（外部）	高橋 利幸	学校運営担当	音楽家
理事	坂本 邦彦	教学担当	大学総合政策学部長
理事	皆川 弘至	教学担当	大学副学長・芸術情報学部長
理事（外部）	高山 弘憲	渉外担当	会社役員
理事（外部）	潮木 守一	学校運営担当	筑波大学 大学研究センター 客員研究員
監事	込山 進		
監事	竹田 剛志		税理士

(2) 評議員（定員：19名）

平成25年3月31日現在、評議員の総数は19名。

3. 教職員の概況

教職員数(人)

(平成24年5月1日現在)

区分	大 学		専門学校		計
	教員	職員	教員	職員	
本 務	78	69	36	70	253
兼 務	268	0	298	3	569
合計人数	346	69	334	73	822

4. 学校法人の沿革

1926 (大正 15) 年	音楽家赤松直氏 私塾「尚美音楽院」を開設
1954 (昭和 29) 年	音大受験科開設
1959 (昭和 34) 年	尚美高等音楽学園各種学校許可受領
1967 (昭和 42) 年	学校法人尚美高等音楽学園として認可
1972 (昭和 47) 年	学校法人尚美学園尚美高等音楽学院に改称
1974 (昭和 49) 年	財団法人音楽教育研究所が本学園に移管
1976 (昭和 51) 年	専修学校制度の発足に基づき、尚美高等音楽学院、専門学校認可 ディプロマコース開設
1981 (昭和 56) 年	尚美音楽短期大学開学 (音楽学科・音楽情報学科)
1983 (昭和 58) 年	尚美高等音楽学院に音楽音響マスコミ専門課程設置 財団法人日本音楽教育文化振興会設立 (財団法人音楽教育研究所を改組)
1984 (昭和 59) 年	東京音楽音響マスコミ専門学院を設置
1985 (昭和 60) 年	尚美高等音楽学院を「東京コンセルヴァトアール尚美」に改称 東京音楽音響マスコミ専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学院」に改称
1986 (昭和 61) 年	尚美音楽短期大学を「尚美学園短期大学」に改称 (音楽ビジネス学科開設)
1989 (平成 1) 年	東京音楽音響ビジネス専門学院を「東京音楽音響ビジネス専門学校」に改称
1990 (平成 2) 年	尚美学園短期大学に情報コミュニケーション学科開設 皇太子殿下、尚美学園バリオホールに行啓、音楽会を鑑賞
1991 (平成 3) 年	東京コンセルヴァトアール尚美と東京音楽音響ビジネス専門学校を統合
1998 (平成 10) 年	東京コンセルヴァトアール尚美を「専門学校東京ミュージックアンドメディア アーツ尚美」に改称
2000 (平成 12) 年	尚美学園大学を開学 (総合政策学部・芸術情報学部) アメリカ・南カリフォルニア大学 (USC) シネマ・テレビジョン学部と提携 フジテレビジョンフォーラムにて SHOBI&USC 提携記念「国際映画放送カン ファレンス 2000」を開催
2003 (平成 15) 年	専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美 新本館完成
2004 (平成 16) 年	尚美学園大学大学院総合政策研究科 開設
2006 (平成 18) 年	尚美学園大学大学院芸術情報研究科 開設
2007 (平成 19) 年	尚美学園大学総合政策学部ライフマネジメント学科 開設
2010 (平成 22) 年	専門学校東京ミュージックアンドメディアアーツ尚美を「尚美ミュージックカ レッジ専門学校」に改称
2013 (平成 25) 年	尚美学園大学上福岡キャンパスを川越キャンパスに統合

II 事業の概要

当年度の事業の概要

平成 24 年度は長期化する経済低迷、円高・デフレ、政治の混迷、少子高齢化等、引き続き不安定な社会情勢が続き、学校経営はかつてない厳しい状況にあった。

このような中で、本学園では基本理念、教育方針、教育目標をより明確にし、生き残りをかけた改革を行うべくさまざまな取り組みを行った。

本学園設置校である尚美学園大学では、平成 25 年度のキャンパス統合に向け、新校舎の建築を進めた。教育改革においては、学部の改編を見据えた抜本的な改革に着手した。

また、尚美ミュージックカレッジ専門学校では、音楽を目指す若者を応援するという音楽学校の本来の使命を真摯に受け止め、さらなる教育体制の充実を図った。

<尚美学園大学 事業報告>

1. 当年度の事業の概要

(1) 学生募集状況

平成 24 年度の学生募集は、開学以来初めて総合政策学部において入学定員を割り、芸術情報学部においても定員は充足したものの前年比較で減少するなど全学的に厳しい結果となった（大学全体の収容定員については充足）。

入学者数減少の原因については、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災とそれに引き続き発生した原発事故の影響が最も大きいと考える。すなわち、岩手、宮城、福島など被災県を中心にした東北地方からの入学者減及び原発事故を不安視した中国等からの留学生の志願者減である。大学全体としてはこの結果を真摯にとらえ、状況を分析し「定員割れ」を単年度で終わらせるべく平成 24 年度は様々な学生募集の工夫を行った。

教職員による高等学校への訪問を強化する他、高等学校進路指導教員を対象とした大学説明会は、初めて尚美ミュージックカレッジ専門学校と合同で行い相乗的効果を図った。またオープンキャンパスでは開始から終了まで教職員一体となった運営を実施、参加者個人へ教員自ら文書を発送するなどこれまでになく取り組みを行った。

さらに、平成 25 年度キャンパス統合を尚美学園大学の新たなスタートと位置づけ、新キャンパスの施設設備の紹介を含め学外への積極的な広報活動を行った。

(2) 改革の現状

過年度より継続している基本教育構想会議における第 3 次の教育改革への取り組みに加え、新たに大学改革プロジェクトを理事会の諮問により立ち上げ、平成 27 年度を目標に具体的な大学改革の検討を全学規模で開始した。

具体的には本学の建学の精神、美を尊び「智と愛」に立ち返り尚美学園のアイデンティティを全面に打ち出すとともに、現代社会の要請と受験生のニーズに対応した新たな学部学科の再構築を見据えた大学改革を構想している。

(3) キャンパス統合と教育研究環境の整備

平成 25 年 4 月のキャンパス統合を円滑に進めるために、平成 24 年度秋学期学事を全体的に早めに

進行させ、平成 25 年 2 月から 3 月にかけて本格的なキャンパス移転作業を実施した。上福岡キャンパスの機能はそのまま川越キャンパスに維持するという基本方針のもと、上福岡キャンパスで使用していた教育機器、設備、備品の移設を行うとともに、音楽ホールであるパストラルホールを始めとする新たに設置した施設の教育設備、備品の整備を行うなどハード面における教育研究環境の一層の充実を図った。

なお、短期大学時代から長きにわたり教育研究の場として親しんだ上福岡キャンパスを離れるにあたって開催した「ありがとう上福岡キャンパス」(平成 23 年 11 月 3 日)は、短期大学時代を含む卒業生、教職員OB、後援会を始め、近隣の住民の方にまで至る多数の参加により盛大なイベントとなった。

総体的な取組みは、以上の通りである。

2. 諸活動報告

(1) 教育研究活動

- ①日本語スピーチコンテスト
- ②英語スピーチコンテスト
- ③総合政策学部 学生懸賞論文

(2) 学生諸活動

強化サークル

①剣道部

- ア. 第 40 回埼玉学生剣道新人戦大会及び第 38 回埼玉女子学生剣道新人戦大会 (於: 埼玉大学)
結果 男子団体: 3 位、女子個人: 敢闘賞
- イ. 関東学生剣道連盟対警視庁交流試合出場 (於: 警視庁武道館)
- ウ. 第 45 回埼玉学生剣道優勝大会及び第 8 回埼玉女子学生剣道優勝大会 (於: 埼玉大学)
結果 個人: 敢闘賞

②サッカー部 (男子)

・TOP チーム

- ア. 埼玉県大学サッカーリーグ戦 1 部【春季】: 2 位
- イ. 2012 年度総理大臣杯埼玉県予選: 準優勝
- ウ. 平成 24 年度彩の国カップ埼玉県サッカー: 選手権大会: 準優勝
- エ. 埼玉県大学サッカーリーグ戦 1 部【秋季】: 準優勝
- オ. 関東大学サッカー大会: 予選 1 位通過

・クラブ フェニックス

- ア. 平成 24 年度埼玉県社会人サッカー 2 部 B リーグ戦【前期】: 1 位
- イ. 第 19 回全国クラブチームサッカー選手権大会埼玉県大会: 優勝
- ウ. 平成 24 年度埼玉県社会人サッカー 2 部 B リーグ戦【後期】: 優勝 (1 部リーグ昇格)
- エ. 平成 24 年度川越市社会人サッカー市民体育大会: 3 位

③サッカー部 (女子)

- ア. 尾瀬花咲カップ (関東学連主催) カップ戦: 準優勝

- イ. Liga student 2012 (鹿島ハイツ) 決勝大会 : 第 5 位
- ウ. 第 3 回ブロッサムリーグ (筑波大学・大東文化大学) : 準優勝
- エ. 第 5 回埼玉県会長杯 : 第 3 位
- オ. 関東リーグ入替戦 : 残留

④女子硬式野球部

- ア. 関東女子硬式野球春季ヴィーナスリーグ戦 尚美学園大学・尚美 CROSS、各リーグで優勝
- イ. 第 8 回全日本女子硬式野球選手権大会 尚美学園大学は優勝
- ウ. 第 2 回 大学女子硬式野球大会 愛知県大府市(至学館大学野球場) : 初優勝
- エ. 関東女子硬式野球秋季ヴィーナスリーグ戦 尚美学園大学・尚美 CROSS、各リーグ準優勝

⑤バドミントン部

- ア. 関東学生バドミントン選手権大会
 - 男子ダブルス : 3 位、男子シングルス : ベスト 8、女子ダブルス : ベスト 16
- イ. 関東学生バドミントン新人選手権大会
 - 団体戦男子 : ベスト 4、男子ダブルス : ベスト 16、女子シングルス : ベスト 8
- ウ. 埼玉県学生バドミントン選手権大会
 - 男子ダブルス : 優勝、男子シングルス : 2 位、男子シングルス : 3 位、
 - 男子シングルス : 4 位、女子シングルス : 3 位

⑥チアダンス部

- ア. USA Novice Championship 2012 大会出場 : 第 2 位
- イ. 全日本学生チアダンス選手権 (JCDA) : 関東予選、全国大会出場
- ウ. USA Regional Competitions 2013 : 予選一位通過 世界大会出場決定

⑦新・音楽集団「匠」

- ア. 世田谷まちづくりコンサート出演
- イ. なつやすみ高校生合唱くりにつく出演
- ウ. さいたまシティオペラ「こうもり」出演
- エ. 福島県棚倉町「蛍の光音楽祭」出演

コンクール・オーディション合格・受賞等

- ①第 6 回横浜国際音楽コンクール アンサンブル部門 室内楽一般の部 : 第 2 位
- ②第 97 回二科展 彫刻の部 : 入選
- ③「特定ラジオマイク利用者連盟」第 12 回 : 功績賞 奨励賞

(3) 交流事業

- ①韓国語学研修
- ②音大クラシック・コンサート
- ③川越市立野田中学校、川越第一小学校、埼玉県立川越南高等学校の留学生派遣
- ④CPIT 海外短期研修
- ⑤大林宣彦と語る高校生映像フェスティバル
- ⑦留学生社会見学

⑨企業交流会

(4) 研究助成、補助金等

- ①科学研究費補助金
- ②学術研究助成基金助成金
- ③文部科学省 私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）
- ④私立大学経常費補助金
- ⑤川越市 市制施行 90 周年記念事業

3. 主な予算執行

(1) 学園・大学に関する的確な情報発信

教育交流、大学の教育情報等の発信、パブリシティ等
募集資料、進学相談会、高校内ガイダンス等
大学ホームページの運用

(2) キャンパス統合・整備

音楽ホールの新設
ピアノの更新
スタジオの移設、音響機材
パフォーミングアーツスタジオの移設
※この他にキャンパス統合関連費用

(3) 教育の充実に向けた取組み

授業アンケート
卒業制作、演奏会《※1》、イベント《※2》参加等
《※1》 フィガロの結婚、音楽表現学科第9回定期演奏会、
バリー・ハリス レクチャー&コンサート
日野皓正 特別講義、小原孝 公開講座、アレクサンダー・イエンナー 特別レッスン
大島ミチル 特別講義、音楽表現学科卒業演奏会 他
《※2》 東京ゲームショウ
奨学金（震災特別減免を含む）
トレーニングルーム運営委託
学生団体活動助成（学友会・強化サークル）
研究費
韓国語学研修

(4) 教育研究の目標に定める『育成する人材像』に沿った社会に期待される人材の輩出

学内企業説明会・講座実施、学生スタッフ制度 他

(5) 地域に貢献する学園作り

自治体、関連団体との共同事業
高校生映像フェスティバル・合唱クリニック

(6) 卒業生・父母などステークホルダーに愛される学園づくり

大学後援会との連携事業（地区別懇談会 他）
学報発行・送付

(7) 健全な財務基盤を築く適切な費用感覚と適切な予算執行基準の確立

平成 24 年度からの予算執行手続きの変更を通じた費用の適正化行動を決定

(8) 大学運営の核となる教職員の育成と組織整備

研修参加費等

<尚美ミュージックカレッジ専門学校 事業報告>

1. 当年度の事業の概要

(1) 教育方針について

本学では平成 19 年度より教育運営の柱として実践教育、パーソナル教育、コラボレーション教育の「3つの教育ポリシー」、また、平成 22 年度よりその具体的な取り組みとして「5つの教育推進目標」を掲げている。

平成 24 年度は、授業・レッスン担当講師との連携・協力体制を強化し、教育内容と教育手法の確認、徹底を図り、その教育手法を SHOBI メソッドとして一般化・体系化することを推進した。

(2) 学生募集状況について

平成 24 年度文部科学省の学校基本調査によると、専修学校の学校数は前年度に比べ 17 校減少し 3,249 校、また在籍者数は前年度に比べ 4,667 人増加し 650,501 人であった。また高等学校卒業生 1,053,180 人のうち、専門学校への進学者は前年度より 5,175 人増えて 177,207 人となり、専門学校への進学率は 3 年連続上昇となった。長引く経済不況や東日本大震災等により将来に不安を抱く高校生が実践的な職業教育を行う専門学校に進むケースが増加していると考えられる。また、本学では導入を見送っているが、平成 24 年度より専修学校における単位制・通信制が制度化され、増大する社会人等の多様な学習ニーズに専修学校が応えていくことが期待されている。

本学では、本格的な少子化や景気減速感が続く経済不況の下、学生数の確保が一層厳しさを増す中で、全学的な学生募集活動に取り組み、平成 24 年度は辛うじて前年度と同数の新入生を確保することができた。

(3) 教育環境の整備について

①ステラスタジオのミキシングコンソールの更新

音響・映像学科のレコーディングの授業及びサウンドデザイン理論の授業で使用する。

業界で主流となっている装置を導入することにより、より実践的な授業を行うことができるよう

になった。

②プレゼンテーションルームの更新

M201 教室と M202 教室を連結させ大教室とし、最新のプロジェクターやモニター等の機器を導入し、大規模なプレゼンテーションが可能となった。

③出力センターの設置

学生の自主活動をサポートするため、制作物の出力を行うための出力センターを設置した。

④1号館消防設備の更新

オリロー緩降機、救助袋、屋内消火栓等消防設備の更新を行った。

⑤4号館耐震診断の実施

東京都における緊急輸送道路の沿道にある建物のうち一定の条件に合致するものの耐震診断が義務化されたことに伴い、4号館の耐震診断を実施した。

(4) 特別卒業認定制度の導入について

本学では、やむを得ない事情により卒業することができなかったが、その後本学で学んだ分野において、特に優れた功績を挙げ、本学の名声を高揚することに大きく貢献した者に特別に卒業を認定するため特別卒業認定制度を設けた。

2. 諸活動報告

(1) コンクール入賞抜粋

- ①第3回ヨーロッパ国際ピアノコンクール ディプロマ賞 ピアノ
(ピアノ学科 本科2年生)
- ②マーチングバンド&バトントワーリング1級指導員検定試験 合格 打楽器
(管弦打楽器学科 本科2年生)
- ③ヤマハエレクトーンコンクール2012 A部門 セミファイナル出場 電子オルガン
(音楽総合アカデミー学科 鍵盤専攻電子オルガン3年生)
- ④第21回日本クラシック音楽コンクール第3位 金管楽器
(音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器専攻3年生)
- ⑤第13回大阪国際コンクール 入選 フルート
(コンセルヴァトアールディプロマ科管打楽器専攻2年生)

(2) 就職先抜粋

- ①オリエンタルランド
- ②サンリオ・ピューロランド
- ③劇団四季
- ④西武ライオンズ ブルーレジェンズ (チアガール)
- ⑤アイビーカンパニー 登録ダンサー
- ⑥ミュージカル座 団員
- ⑦マウスプロモーション 研修員
- ⑧ぷろだくしょんバオバブ 研修員

- ⑨シグマ・セブン 研修員
- ⑩㈱グローブエンターブレインズ 作家所属
- ⑪島村楽器㈱
- ⑫池袋 RUIDO K3
- ⑬タッドポウルスタジオパート 2
- ⑭㈱バンケット・プランニング
- ⑮㈱総合舞台
- ⑯エス・シー・アライアンス
- ⑰㈱スピードスター・ミュージック
- ⑱㈱プラチナムプロダクション
- ⑲サンフォニックス
- ⑳小澤音楽教室

(3) デビュー抜粋

- ①ヴォーカル学科卒業生
バクステ外神田一丁目 (メンバー) メジャーデビューシングル
「バイトファイター」平成 25 年 5 月 8 日リリース
- ②ダンス学科卒業生 (3 名)
リクルート社のホットペッパービューティの TVCM 出演 (主演: 石原さとみ)
- ③ダンス学科卒業生 (3 名)
「SEKAI NO OWARI」(4 人組バンド) の ARENA TOUR 2013 ツアーダンサー
- ④ダンス学科卒業生 (2 名)
「サムライ・ロック・オーケストラ」(パフォーマンスグループ) ワールドツアー2013 ダンサー
- ⑤ミュージカル学科 卒業生
 - ・於 富山市芸術文化ホール
オーバード・ホール名作ミュージカル上演シリーズの「ミー&マイガール」出演
「ハロー・ドーリー！」平成 25 年 8 月 16 日～18 日に出演予定
 - ・松竹株式会社 一般演劇
「ザ・オザタク」大阪松竹座平成 25 年 5 月 9 日～20 日及び
「ザ・オザタク」新橋演舞場平成 25 年 5 月 25 日～6 月 2 日に出演

3. 主な予算執行

平成 24 年度は、「SHOBI スタンダード」プランに基づく事業展開を行った。

(1) 教育の向上

各学科が育成する人物像をより明確にし、カリキュラム、科目、教員を見直し、外部から見ても分かりやすく、魅力ある学科の構築を推進した。

①特別講師による最先端教育

音楽・パフォーマンス・エンタテインメントプロデュースの各分野でオピニオンリーダーとして名高い方を学校の特別講師として委嘱し、最先端の知識、スキル、情報の習得を図るための授業・

レッスン・特別講座を実施した。

②優秀者指導の実施

各学科の優秀者に対して、更なるレベルの向上を図るための特別指導を実施した。

③音楽ビジネス業界フォーラムの開催

音楽ビジネス業界のフォーラムを今年度も開催し、業界の視野を広げるとともに、これからの音楽業界に向けて情報を発信した。

平成 24 年 11 月 3 日 新時代のビジネスフォーラム Vol.7

「これからのミュージックビジネスにおいて、必要とされる人材とは Vol.2」

④教育成果の発表・発信

学科、学生の教育成果を公演、発表会、イベント、イベント制作、メディア制作等にて学外、学内に広く発表、配信した。全学科の年間合計イベント数は 70 本。数多くのイベントで学生の満足度とプロ意識の向上を図った。

⑤「SHOBI NET-TV」の配信

学生の演奏会・作品・プロフィール・学科の紹介をインターネット放送局「SHOBI NET-TV」により配信し、学生のプレゼンテーションと学校の PR の拡大を図った。

⑥デビューセンターを活用したメジャーデビュープロデュース

デビューセンターが運営する学内オーディション「S-1」開催と在校生のデビュープロデュースを実施した。

「S-1」オーディションを 2 回実施した。

春の最優秀者は、街灯チルドレン・ララバイ (バンド 4 人組)

(プロミュージシャン学科 3 名は 3 月卒業、1 名は 25 年度在学中のメンバー)

平成 25 年 9 月 CD リリース予定

⑦地域、企業と提携した演奏会・発表会

地域・企業と提携した演奏会・発表会を実施した。

ア. 文京区シビックコンサート

イ. 文京シビックセンターリサイクルフリマ演奏

ウ. 文京朝顔ほおずき市運営協力・演奏

エ. 文京カレッジコンサート参加

オ. 本郷消防署表彰式参画

カ. 湯島天神梅祭り出演

キ. 豊島区コミュニティーダンス参画

ク. 国際連合「国際ガールズデー」イベント参画

ケ. 大分県「大分七夕祭り」イベント参画

コ. 企業提携演奏会等 4 件

(2) 学生支援

①奨学金

新入特待生、新入ユニーク奨学生、新入社会人奨学生、新入留学生奨学生、進級特待生、進級勉強奨学生、震災被災奨学生

- ②クラス単位での研究、懇親のためのクラス運営費
- ③資料室整備、ナクソスミュージックライブラリー運営費
- ④キャリアセンターの社会資格・就業支援プログラム講座等の運営費
- ⑤国際交流センター運営費（留学生のフォロー）
- ⑥在校生のための福利厚生充実

(3) 教育環境の整備・充実

①施設

- ア. 消防設備改修
- イ. 空調設備更新
- ウ. 電気設備改修
- エ. 内装塗装工事

②教育機器

- ア. ブーカスタジオ：ムービングライト
- イ. ブーカスタジオ：ワイヤレスマイクシステム更新
- ウ. サーバ更新 2 台
- エ. M024 教室：フロアモニタスピーカー4 台
- オ. 管楽器、打楽器（マーチング用含む）の更新

③ネットワークシステムの維持、整備

サーバホスティング、インターネットサービス、サーバ保守、基幹ネットワーク保守、LAN 運用保守、教室PCメンテナンス、コンピュータウイルス対策、教職員PC更新 他

④管理維持

電気、水道、ガス、施設保守、清掃委託、運搬、教育用・事務用消耗品 他

(4) 広報・学生募集

(5) 教職員研修

Ⅲ 設備の状況

1. 主要な設備の状況

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

区 分		面積又は数量	帳簿価格
土地	大学	152,355.50 m ²	6,404 百万円
	専門学校	2,903.30 m ²	4,421 百万円
	計	155,258.80 m ²	10,826 百万円
建物	大学	55,294.67 m ²	10,553 百万円
	専門学校	15,199.19 m ²	4,927 百万円
	計	70,493.86 m ²	15,481 百万円
教具校具及び備品	大学	3,728 点	564 百万円
	専門学校	2,979 点	402 百万円
	計	6,707 点	966 百万円
図書	大学	180,135 点	637 百万円
	専門学校	12,817 点	53 百万円
	計	192,952 点	690 百万円

※全ての金額について百万円未満を切り捨て処理している為、合計は一致しない場合があります。

IV 財務の概況

1. 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	
科目	当年度
学生生徒等納付金収入	4,986,382
手数料収入	32,309
寄付金収入	62,006
補助金収入	222,418
資産運用収入	14,368
資産売却収入	1,134,400
事業収入	20,184
雑収入	65,451
借入金等収入	1,000,000
前受金収入	2,959,146
その他の収入	1,569,704
資金収入調整勘定	△ 4,198,433
前年度繰越支払資金	6,095,873
収入の部合計	13,963,813
支出の部	
人件費支出	2,666,102
教育研究経費支出	1,300,564
管理経費支出	996,122
借入金等利息支出	543
施設関係支出	3,228,928
設備関係支出	418,936
資産運用支出	42,150
その他の支出	294,255
資金支出調整勘定	△ 817,758
次年度繰越支払資金	5,833,967
支出の部合計	13,963,813

※全ての金額について千円未満を切り捨て処理している為、合計は一致しない場合があります。

2. 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	
科目	当年度
学生生徒等納付金	4,986,382
手数料	32,309
寄付金	66,113
補助金	222,418
資産運用収入	14,368
事業収入	20,184
雑収入	65,451
帰属収入合計	5,407,228
基本金組入額合計	△ 2,054,642
消費収入の部合計	3,352,586
消費支出の部	
人件費	2,689,986
教育研究経費	1,829,857
管理経費	1,054,695
借入金等利息	543
資産処分差額	39,594
徴収不能引当金繰入額	38,460
消費支出の部合計	5,653,137
当年度消費収入超過額	0
当年度消費支出超過額	2,300,551
前年度繰越消費支出超過額	2,532,884
基本金取崩額	123,658
翌年度繰越消費支出超過額	4,709,777

※全ての金額について千円未満を切り捨て処理している為、合計は一致しない場合があります。

3. 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	
科 目	当年度末
固定資産	29,873,423
流動資産	7,146,382
資産の部合計	37,019,805
負債の部	
固定負債	1,290,243
流動負債	4,056,771
負債の部合計	5,347,014
基本金の部	
第1号基本金	35,935,568
第2号基本金	0
第4号基本金	447,000
基本金の部合計	36,382,568
消費収支差額の部	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 4,709,777
消費収支差額の部合計	△ 4,709,777
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	37,019,805

※全ての金額について千円未満を切り捨て処理している為、合計は一致しない場合があります。